

栃木の「学校力」の向上

自らの力で自分の未来を力強く切り拓くことのできる子どもを育てるために

栃木県総合教育センター 平成24年3月

授業を中心

日々の教育活動の質を高める！

学校が家庭や地域と連携し、児童生徒に「生きる力」をはぐくむためには、小学校6年間、中学校・高等学校各3年間を見通して、「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体」をバランスよく育成していくことが大切です。これらの力を育成する上で中核となるのは日々の授業です。

本リーフレットでは、「学校力」を「児童生徒を成長させる学校の組織的な働き」ととらえ、授業を中心とした教育活動の質を高めていくための方策について考えていきます。学校の取組をより充実させるための参考資料としてご活用ください。



全国学力・学習状況調査に関する調査研究※1では、「学校における管理職と教員の協力関係、教員全員の共通理解に基づく熱心な学習指導」「児童生徒の素直さ」等が、学力の高さの要因の一つであることが示されました。

本県における分析※2では、**本県児童生徒は「学習意欲や社会への関心」や「難しいことにも挑戦する意欲」が高い**ことが明らかになりました。一方、学校の取組では**「学校全体での調査結果の活用」「校内研修の実施」等に課題**がみられます。児童生徒に実力を付け、さらに伸ばしていくためには、教育実践を振り返り、学校全体で改善に取り組んでいくことが望されます。

事実に基づく
振り返り

- 日々の教育活動は
 - ・何のために行っているのか。
 - ・実効あるものになっているか。
 - ・児童生徒の成長発達にどのようにつながっているか。

協働による
改善

- 何を、どう見直し改善するか。
 - ・強化する・集中する・整理する等

成果を確かめながら、一歩ずつ、確実に、取組を進めましょう。



改善を継続して行うために

自校の教育課題を明確にしましょう。

各学校が教育活動を効果的に展開していくためには、自校の現状を知り、課題を明らかにする必要があります。自校の取組を振り返り、よりよい取組についていくための方策等について、全教職員で話し合いましょう。

すべての学級における授業の質の向上を目指す

指導の方向を
同じにする

教職員の学び
合いを組織する

「目標」と達成のための「方策」を明確にし、学校として一貫した指導を行いましょう！

◆ 作戦会議 1

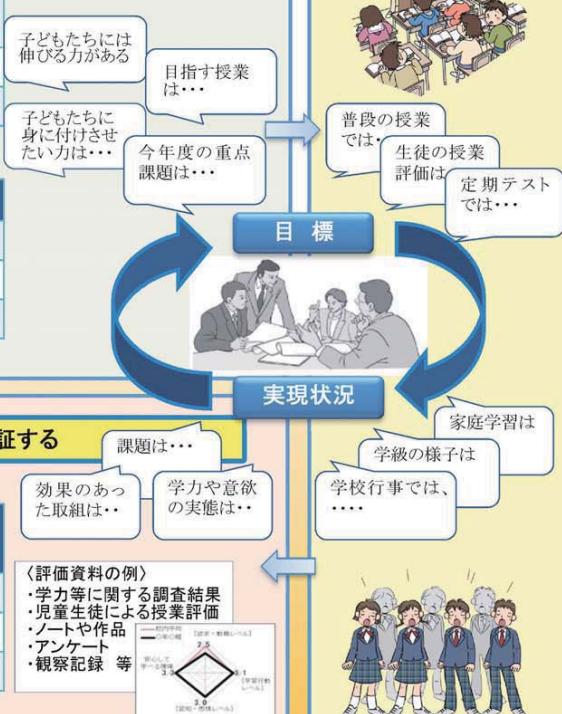
■学校として目指す方向を確認し、目標実現に向けた方策を共有する

現状把握・目標設定

- 学校の現状を把握し、目標を共有していますか？
 - これまでの取組や調査結果、教職員の観察等を基に、児童生徒の生活や学力等の実態について確認する。
 - 児童生徒の実態や学校課題に則した重点目標を設定する。
 - 児童生徒に身に付けさせたい力や育てたい態度を明確にする。

具体策の検討・計画立案

- 目標の実現に向けて有効な方策がとられていますか？
 - 目標の達成度を測定する方法を明確にし、計画に位置付ける。
 - 取組について定期的に協議したり報告したりする場を設ける。
 - だれが、いつ（までに）、何をするのかを明確にする。



◆ 作戦会議 2

■児童生徒の変容を把握し、取組の効果を検証する

結果の分析・改善策の検討

- 児童生徒の変容を具体的に把握していますか？
- 成果と課題を整理し、全教職員で改善策を検討していますか？
 - 諸テストや調査を活用し、身に付けさせたい力の定着度を測定する。
 - 調査結果を分析し、目標に照らして取組を評価する。
 - 改善に向けた方策について協議し、次期の課題を確認する。

事実に基づいて
評価し、改善策に
ついて検討する

● 「学校力」を向上させる鍵

教育活動を絶えず改善していくための働きを学校内部に創り出すこと

教育活動は、常に「現在進行形」。質の維持・向上には、日常の「振り返り」が必須！

すべての学級における授業の質の向上を目指す

◆ 実践とモニタリング

■校内研修で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる

実践・指導状況の確認

- 重点目標を意識して授業を行い、実践を共有していますか？
 - 授業力向上のために継続的かつ組織的な研修を行う。
 - ・「自指す授業」の確認、指導内容・方法の検討、実践報告、課題の確認 等
 - 基礎学力育成に必要な時間の確保、指導体制づくりを工夫する。
 - ・習熟度別指導、朝の活動や放課後を利用した補充指導、家庭学習習慣の形成 等
 - 学習意欲を高める教育活動、環境整備を充実させる。
 - ・学ぶ意欲が育つプロセスに着目した授業実践、学校行事の展開 等
 - 達成状況や取組の過程について定期的に点検する。
 - ・単元や学期ごとの定期的な学力定着度の把握
 - ・教科・学年、学校としての学力実態の分析と引継ぎ 等

実践のポイント

すべての児童生徒の学びを支える

- 日々の授業を大切にする意識
- 実態分析に基づく
学校として一貫した指導の継続

〈参考資料〉



児童生徒の事実を基に実践を振り返り、教育活動の改善につなげましょう！

地域との協力

- ◆地域住民による支援
- ◆地域資源の有効活用 等

家庭との連携

- ◆生活習慣・学習習慣の確立
- ◆読書活動の推進 等



教育委員会等の サポート

- ◆参考資料・情報提供
- ◆校内研修支援・助言 等

●校長のリーダーシップが教職員の力を引き出す

「学校力」の向上には、教職員が教育専門家集団として力を十分に発揮する必要があります。校長には、教職員のやる気を高め、実効ある取組としていくためのリーダーシップが求められます。教職員の考えを受け止め、学校の状況を的確に判断しながら、取組を焦点化して実践することが、教職員の安心感と実践に対する責任感の維持につながります。



●目標とプロセスの共有が教職員集団の力量を高める

教育活動を展開するに当たって、「ビジョンと目標の共有」「身に付けさせたい力の明確化」「学習の到達度をモニターする手段」の確認は、年度当初に学校として行うべき重要な活動です。

「ビジョンと目標の共有」がなされなければ、教職員のベクトルがそろわず、組織として成果をあげることは望めません。また、成果を確認したり課題を明らかにしたりするためには、「身に付けさせたい力」を明確にするとともに、定着度を把握するための手段をもつ必要があります。その上で、計画された具体策が、本当に有効であるかどうかを吟味することが大切です。こうして教職員全員の参画によって確認された取組を日々実践していくことになります。

日常の教育活動において大切なのは、個人の取組を共有する場を設定することです。校内研修は、教職員の相互理解を深め、優れた実践を共有する場として重要な機能を果たします。授業には、教師の子ども観や授業観が反映されます。誰もが授業を開き、協議し合うことが、授業者だけでなく全員の振り返りと更新につながります。児童生徒の可能性と成長を信じ、全員を大切にする授業を模索していくことが何より大切です。

こうした活動を通して、教職員間のコミュニケーションが活性化され、教育実践をより高めていこうとする雰囲気や学習活動に対する促進的な風土がつくられていきます。このように課題の克服に向けてのプロセスを共有することによって、「学校力」は高まると考えられます。



参考

欧米には、教育格差を克服し、子どもの学力を高めることに成功している学校を指す「エフェクティブ・スクール」（「効果のある学校」）という概念があります。これらの学校には、共通する特徴が存在することが報告されています。

「効果のある学校」の特徴

- 校長のリーダーシップ
- 教員集団の意思一致
- 安全で静かな学習環境
- 公平で積極的な教師の姿勢
- 学力測定とその活用

●教育委員会等のサポートを活用する

教育委員会や教育センターでは、学校の教育活動を支援する様々なツールや資料を提供しています。

各学校が校内外の様々な資源を生かし、効果的に教育活動を行っていくためには、教育委員会の事業や人的資源を利用するのも有効です。児童生徒の事実に基づく教育活動の点検や見直し、日常の教育活動につながる学校評価や校内研修の推進など、学校全体の教育活動の質の向上につなげましょう。



平成23～24年度、栃木県総合教育センターでは、県内公立小学校・中学校4校の協力を得て、「学校力」を高める取組について調査研究を行っています。調査協力校では、地域や児童生徒の実態を踏まえ、教職員が協働して、児童生徒の成長を支えるための体制づくりや教育活動の改善に取り組んでいます。平成24年度は調査協力校の実践をまとめ、参考資料を発行する予定です。

【調査協力校】

- 宇都宮市立陽東小学校
- 岩舟町立岩舟小学校
- 鹿沼市立加蘇中学校
- 足利市立山辺中学校